

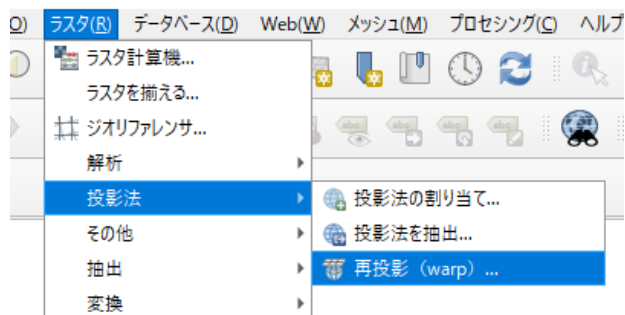
6 オリジナルマップの座標系変換

「野外調査地図」では座標系「WGS84」を使うようになっているので、オリジナルマップの座標系が「JGD2000」などの場合、座標系を変換します。異なる座標系の地図を表示させようとする、大きくずれるか、表示されない。



座標系は地図の表示に必要な共通言語のようなもの

「再投影(warp)」による座標系変換

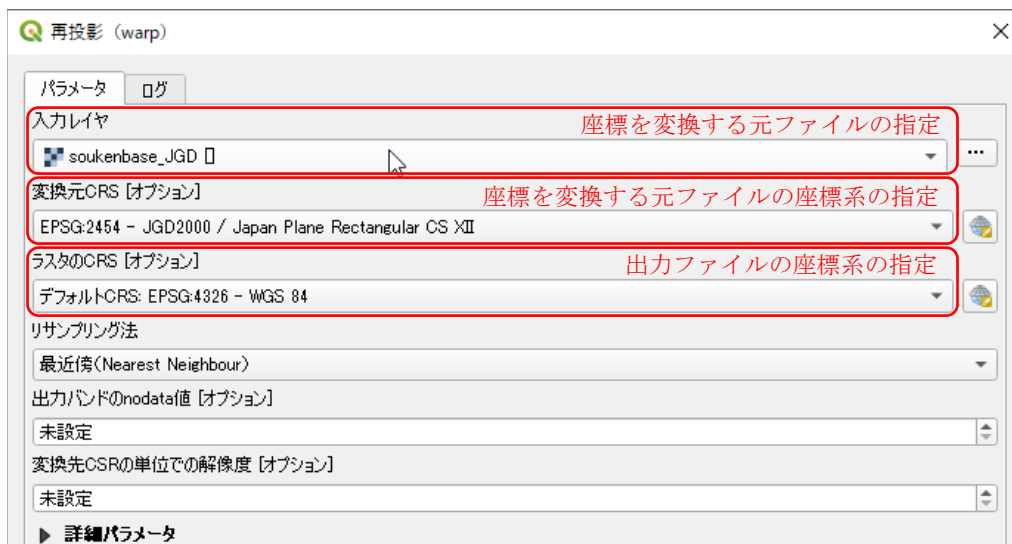


座標系の変換はQGISの標準機能である「ワープ(再投影)」で行います。上部メニューより「ラスタ」→「投影法」→「再投影(warp)」を選択。

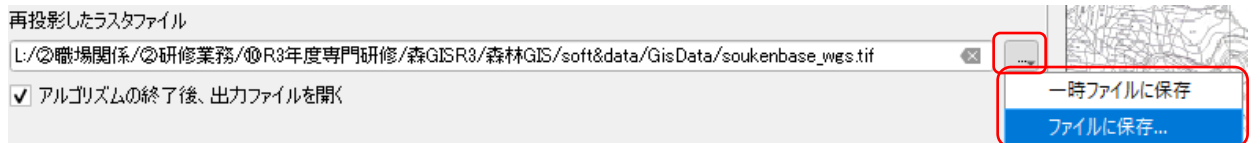
「入力レイヤ」に作成した「オリジナルマップ」を指定。

「変換元CRS」に、変換元の座標系を指定。

「ラスタのCRS(オプション)」に出力するファイルの座標系を指定。



- ・ボックス下部「再投影したラスタファイル」右端の「…」のスイッチを押し、「ファイルを保存」をクリック
- ・「ファイルを保存」ボックスが開くので「保存先、ファイル名、ファイルの種類」を指定し保存形式を設定。
- ・ファイル名はその後の取り扱いを考え、内容、座標系が分かりやすい名前にする。雑に指定せず目的をもって指定。



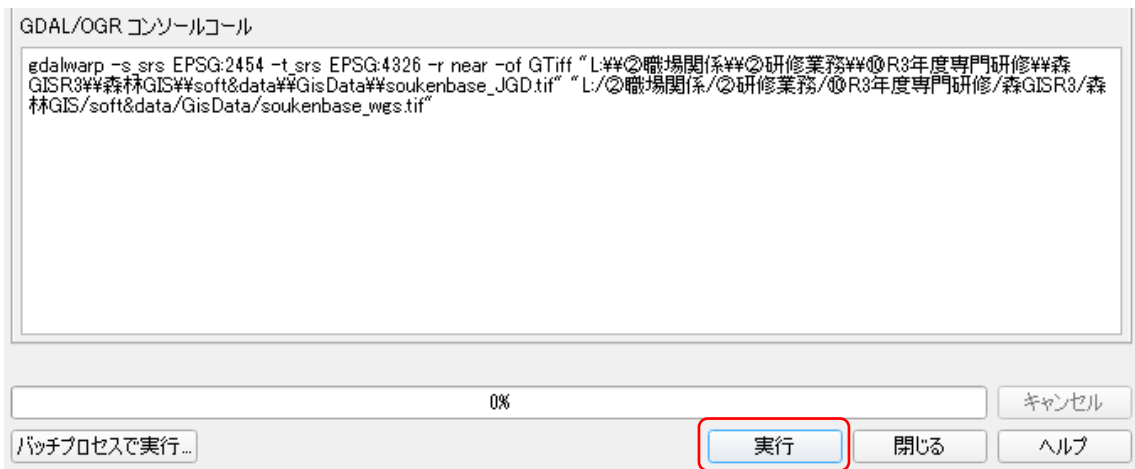
(ファイル名の例)

良くない例: 「1234.tif」「abcd.tif」「Test.tif」

→ ファイルの内容や座標系がファイル名で推測できない。

おすすめ例: 「souken_wgs.tif」「R3rindo_jgd.tif」「fplanR30623_JGD.tif」

→ ファイルの内容や作成年度、座標系が推測しやすい。



「実行」ボタンを1回クリックすると変換開始、インジケータバーが反応します。エラーが即座に出る場合は設定が間違っています。主に座標参照系の設定、指定ファイルのスペルミスなどが多く見られます。

あせらない(重要！)

変換には少し時間がかかります。また、変換終了後「ログ」画面に切り替わるので、「閉じる」を押して変換終了。

「パラメータ」画面に切り替えた場合、「閉じる」ではなく「実行」を選択すると再び同じ処理が始まります。途中で画面を閉じるとファイルの破損など発生するので、そのまま処理が終わるまで待ち、「閉じる」で変換作業絵御終了してください。